



浮世畫譜二編

全

手寫
395
2





浮世うきよと稱とせうする其その中ちゆう小糸こいと奇者きしや流りゆうと優世うきよと嘆なげき
 佛家ぶつがと所謂いそゆる浮世うきよと喻たとはを轉てんして浮世うきよ某あひと
 其その所ところ屬たぐひ形かたちる浮世うきよ優うの當たう時じの風容ふうよう於お端たん的てきと字じ
 出いてを號なごひするを遠とほき水原みづはらなる鳴呼なげ繪え似にせ画ゑ
 乃な往昔むかしより連綿れんめんと菱川ひしがわ西川さいがわの水脈みづのちゆう世よ々々不絶ふせつに
 粵くわつに哥川かがわの流ながふあは傳つたは道みちの上うへも小清せうと英泉えいせんと
 即いま今こんの浮うる光景あかりまがを画ゑ一いつ滴てきの畫ゑ語ごを書か肆し

上^{ウヘ}様^{サマ}に^ニ先^{サキ}ず^ズ解^{トク}を^ヲ流^スし^テ溢^ルり^テ其^ノ弊^ヲ治^ス
上様は先ず解を流ししるに溢るる其の弊を治す
 ら^ニ四^{ツキ}時^ノの^ハ変化^ノ人物^ノの^ハ情態^ハ亦^ト變^シる^ト
らに四時の変化の人物の情態も亦變る
 今^{イマ}も^モ一^{ツキ}納^レ筆^ヲ新^ニ野^ノ儀^ニに^シて^ハ江^ノ海^ノの^ハ底^ニを^シて^シ
今も一納筆を新野儀にして江海の底を以てして
 測^スふ^テ之^ノ長^サと^ハ短^サと^ハ之^ノ流^ルの^ハ速^サと^ハ遅^サと^ハ之^ノ計^ハ無^クず
測ふて之の長と短と之の流の速と遅と之の計無ず
 棹^ヲさ^シて^ハ棹^ノを^トり^テ樂^ムん^ニ人^ノ編^ムを^ト續^クて^ハ多^クも^ト少^クも^ト
棹さして棹をとりて樂んに人編むを續て多くも少くも
 換^ルへ^テ其^ノ方^ノの^ハち^ハの^ハや^ハん^トと^ハ彼^ノの^ハ低^ク下^ルと^ハ之^ノ高^ク上^ルと^ハ之^ノ言^ハの^ハ言^ハ
換へて其の方のちのやんとと彼の低く下ると之高く上ると之の言の言
 如^クく^シて^ハ成^ルる^ト也^ト
如くして成る也
 九^ノ外^ノ史^ノ

二序

浮世畫譜

浮世畫譜

二編

京山應
曾書

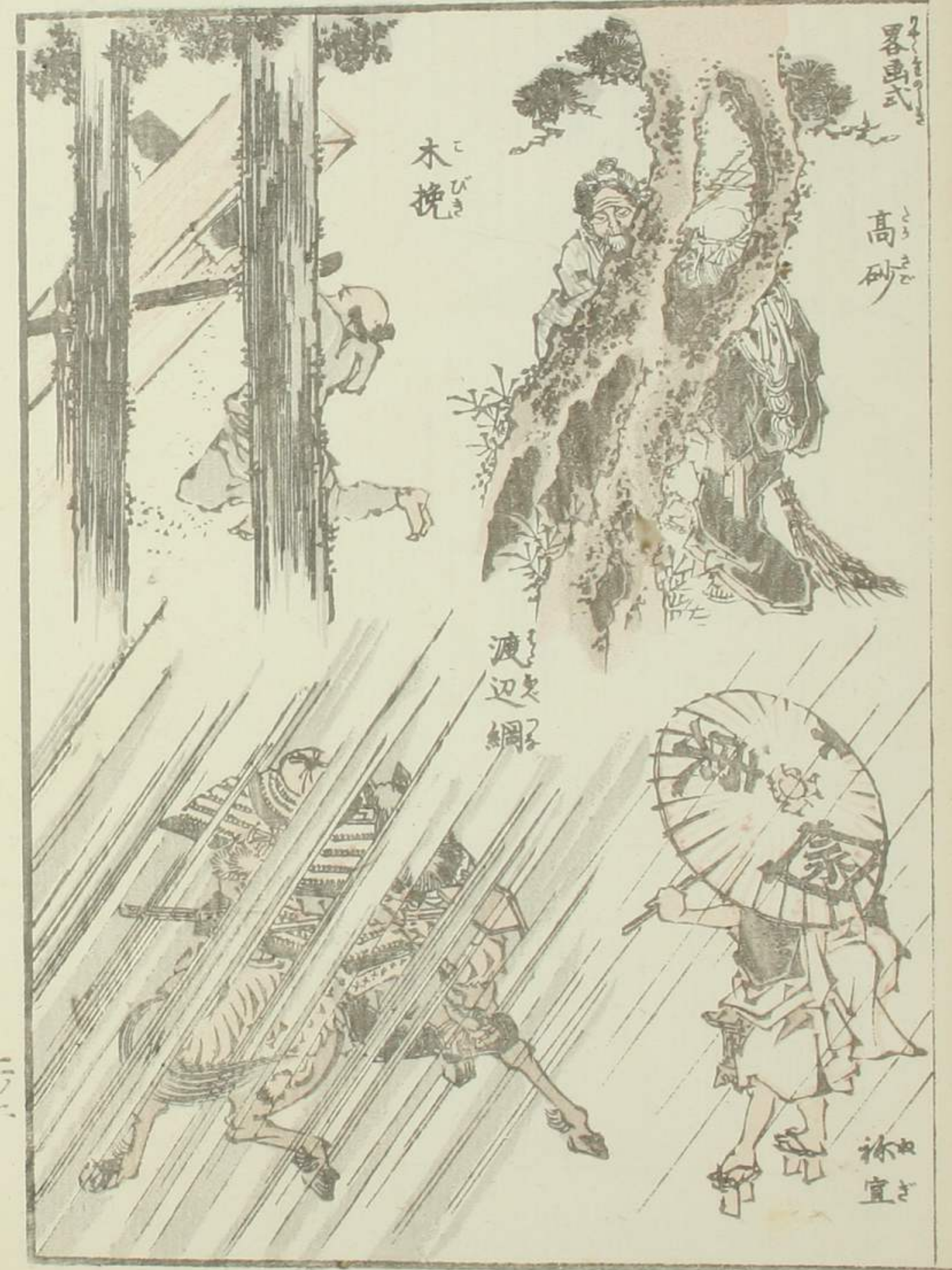




西王母畧画



女三之宮畧画









天和年間
美川振



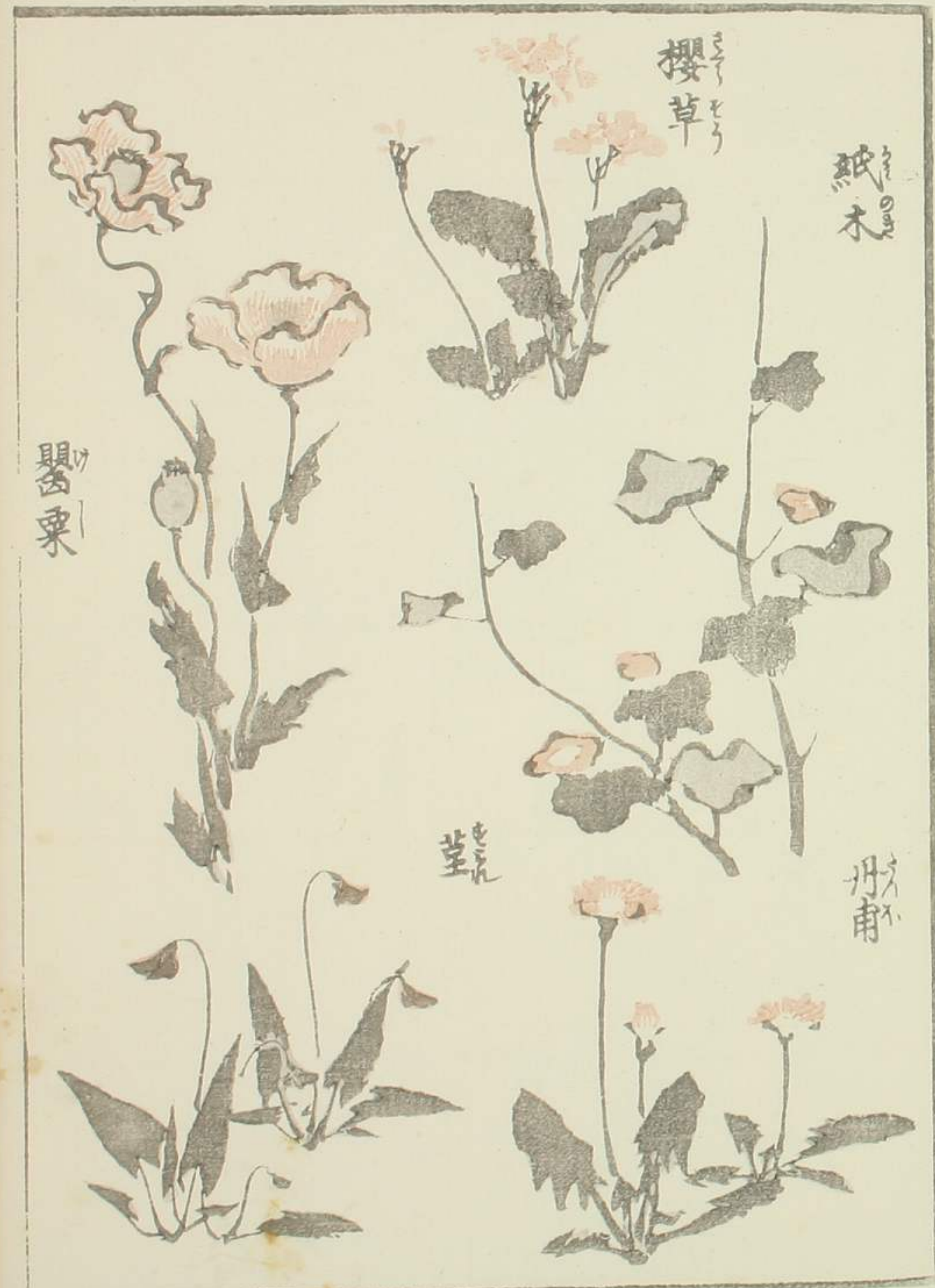
畠面
六王川





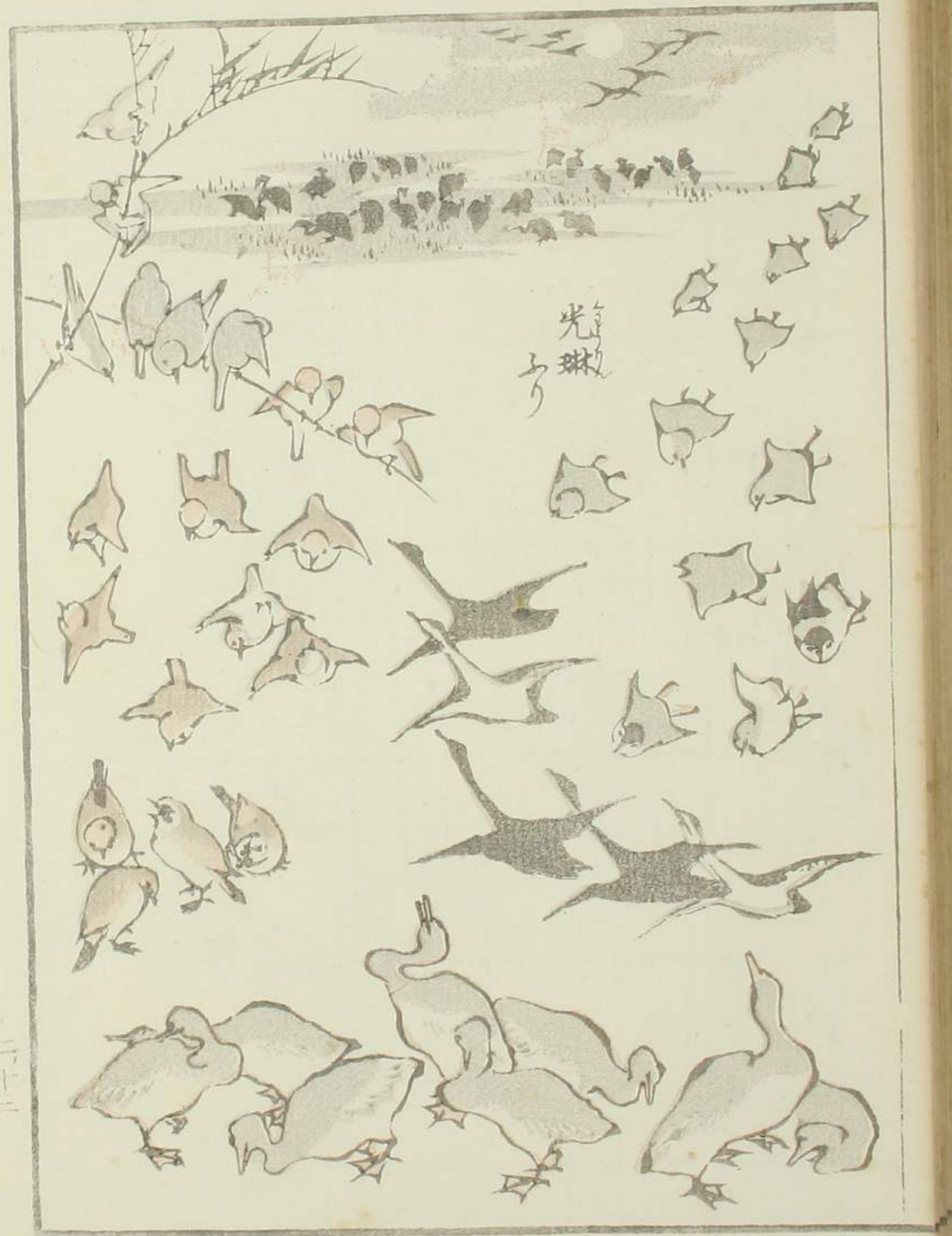




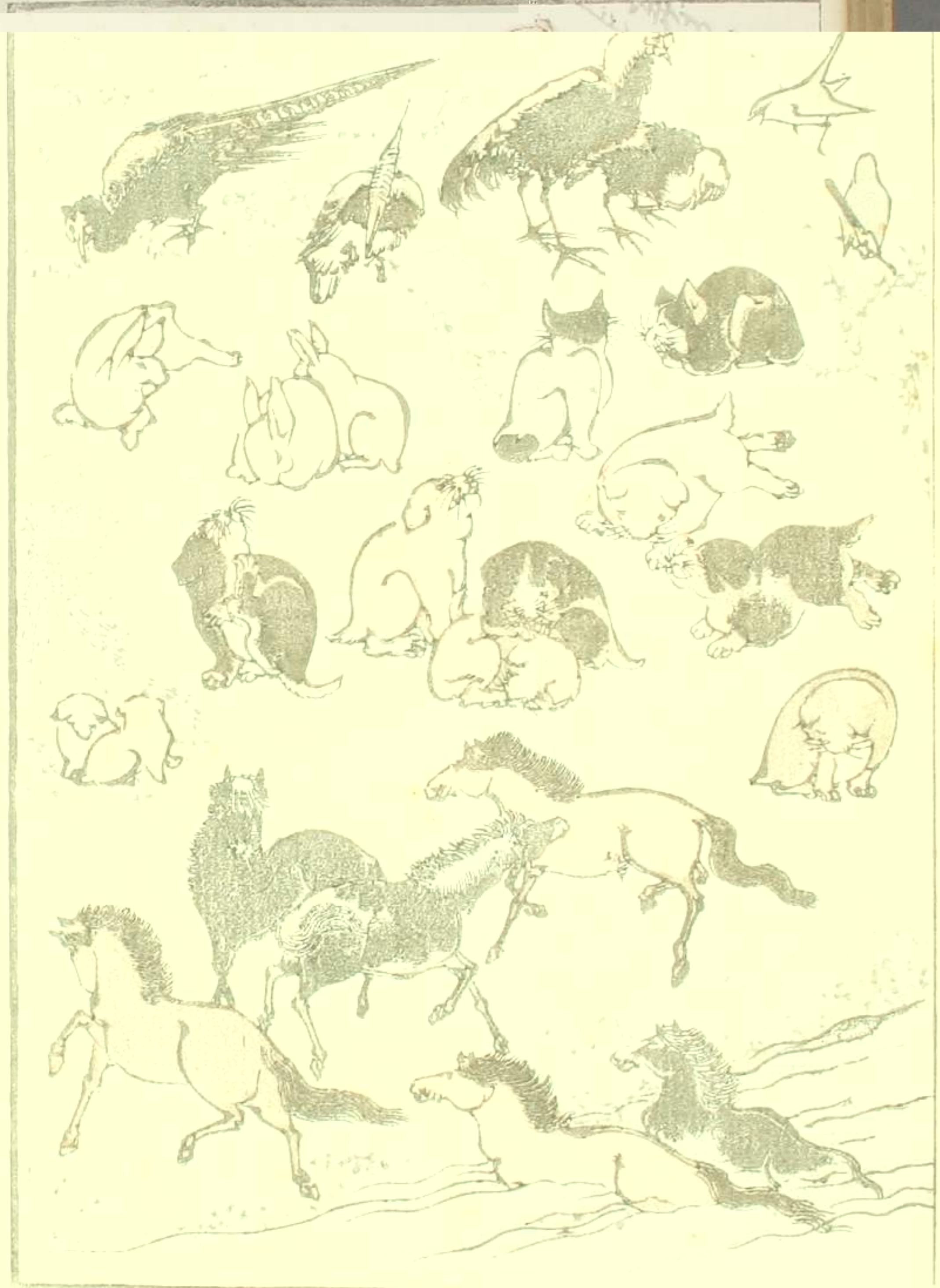
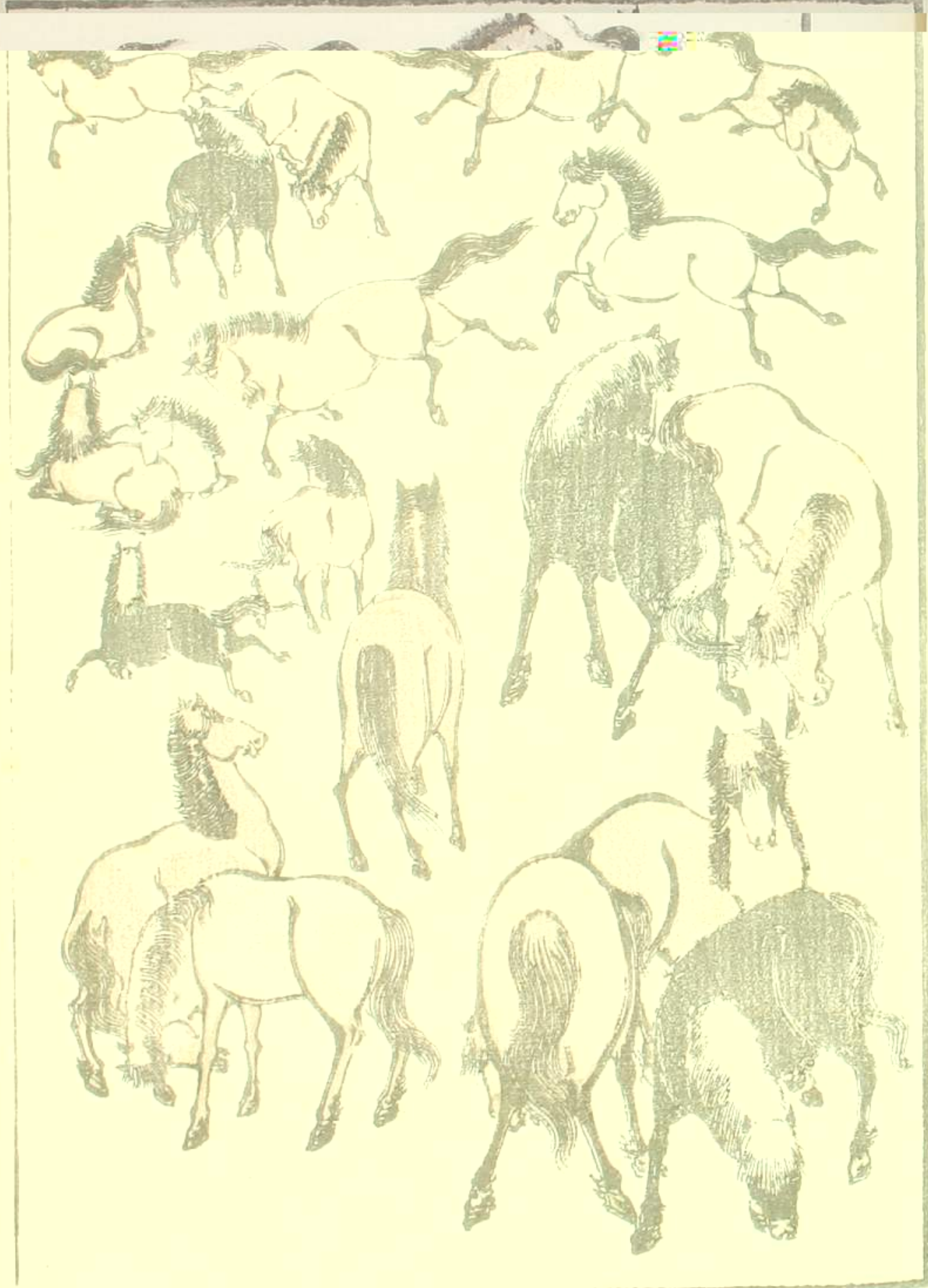




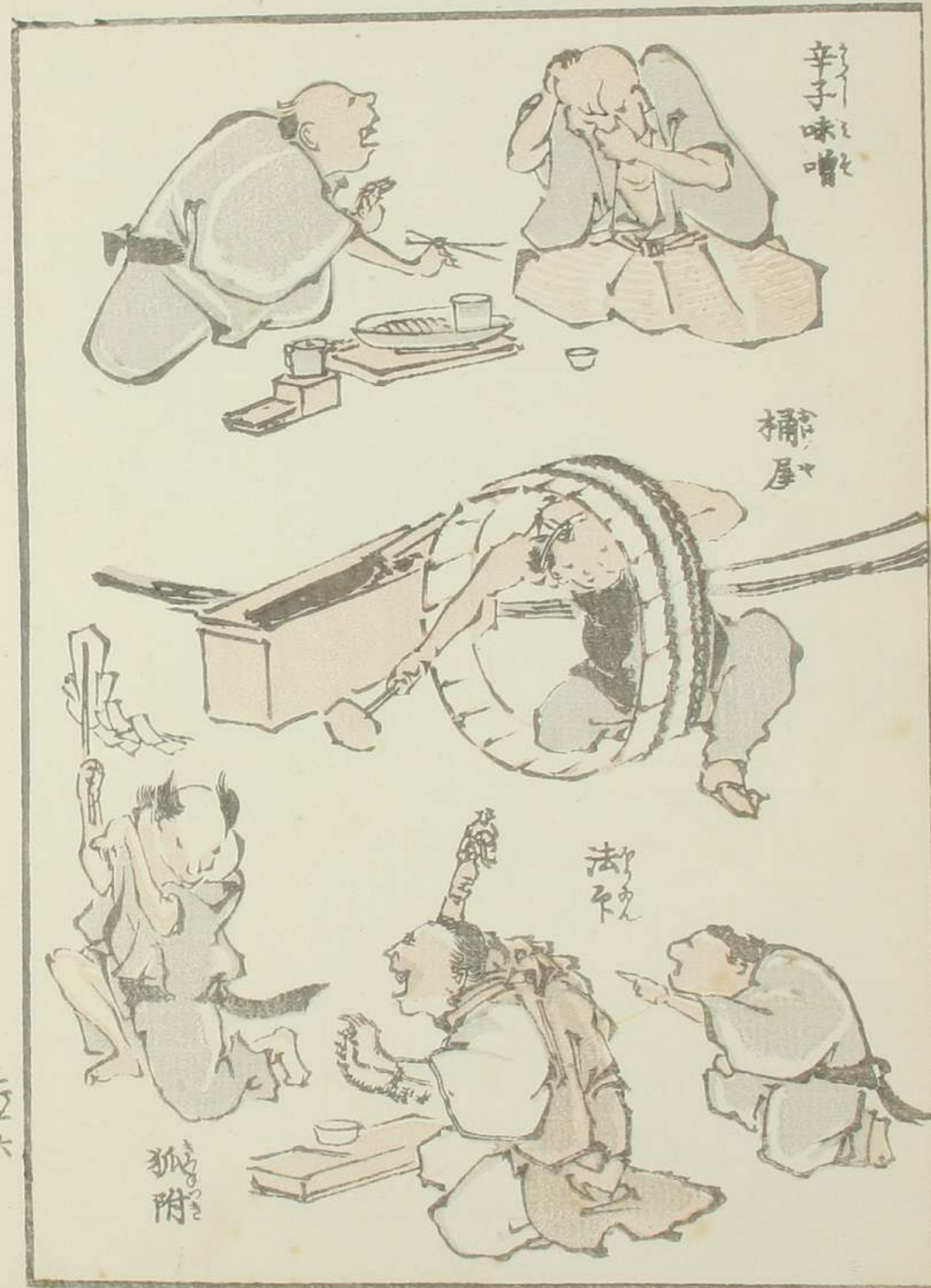




光琳
子



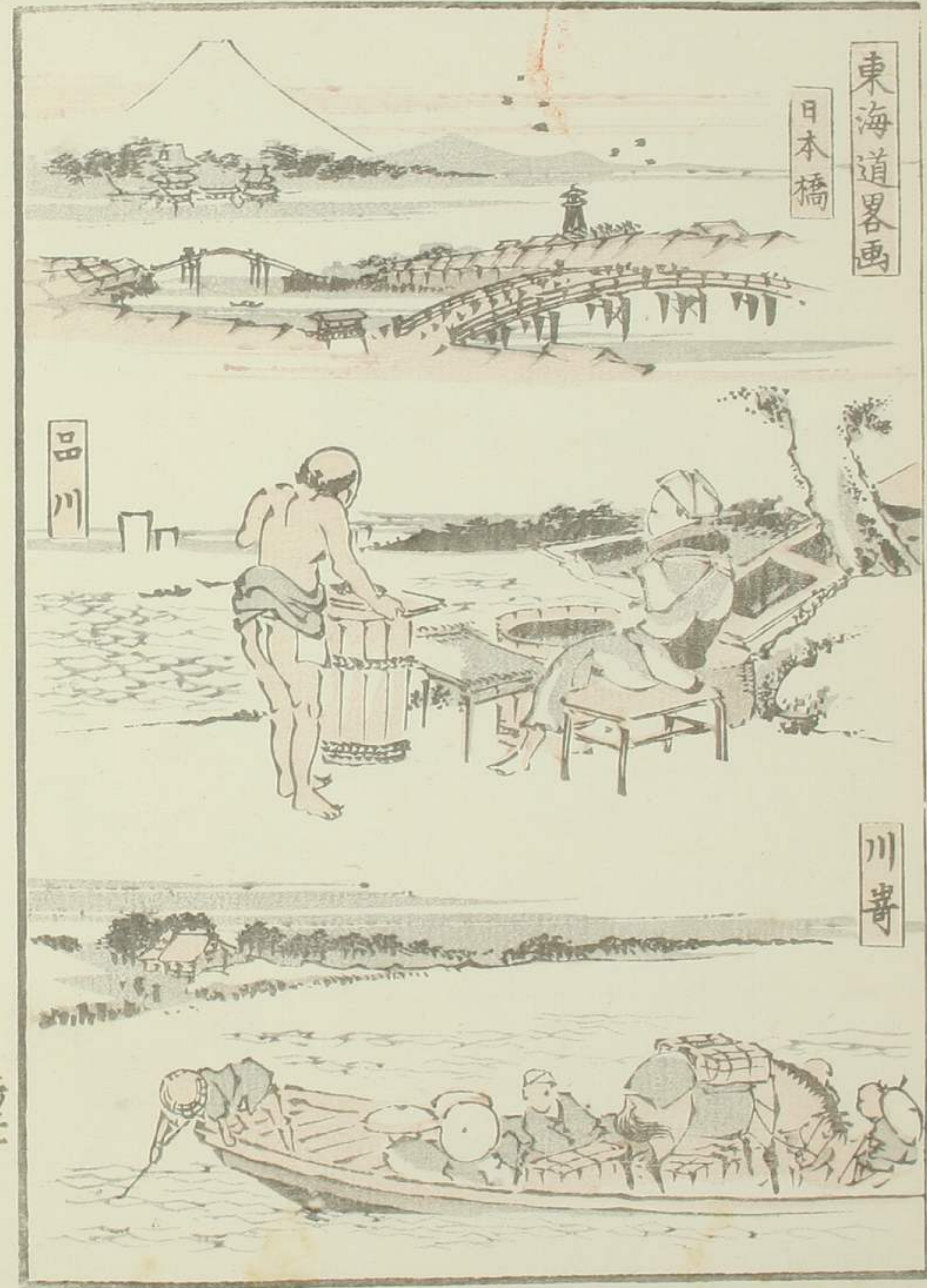












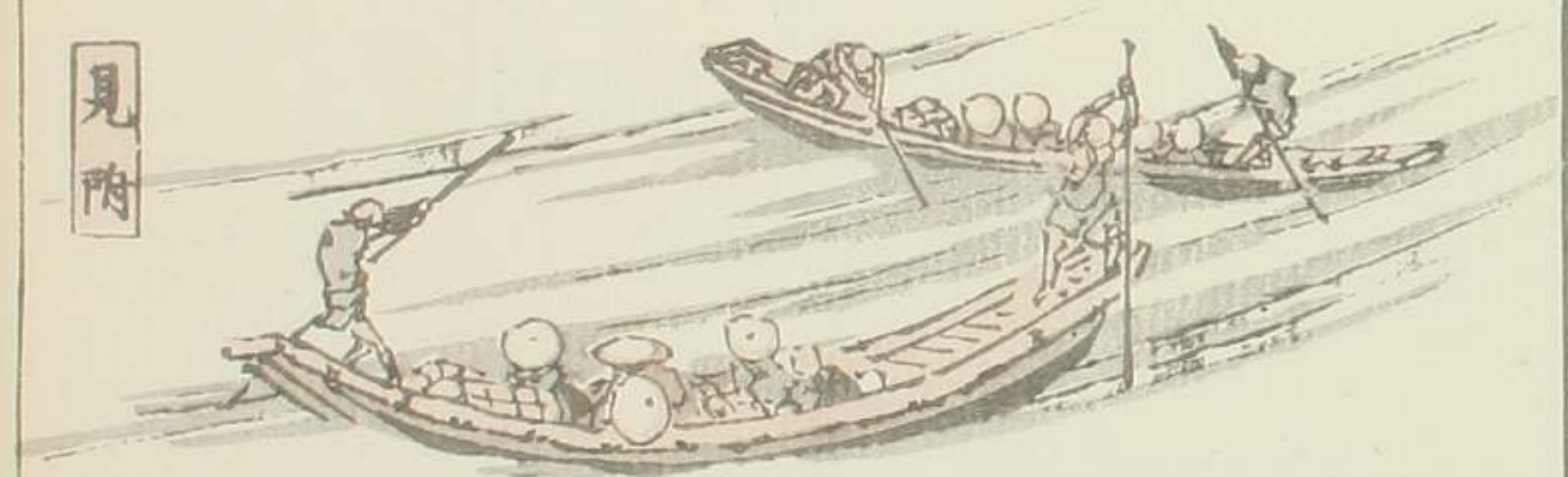




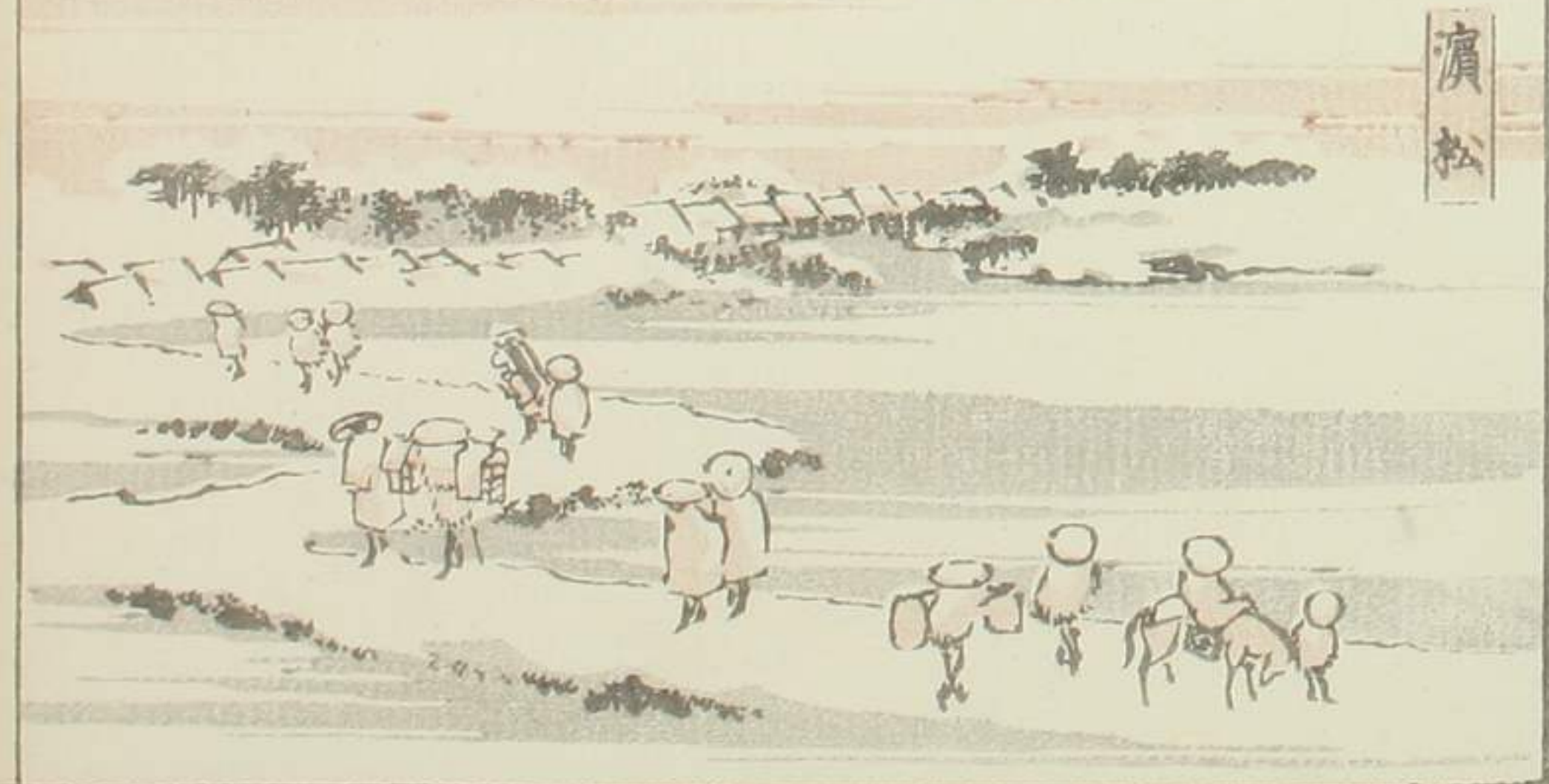




袋井



見附



濱松



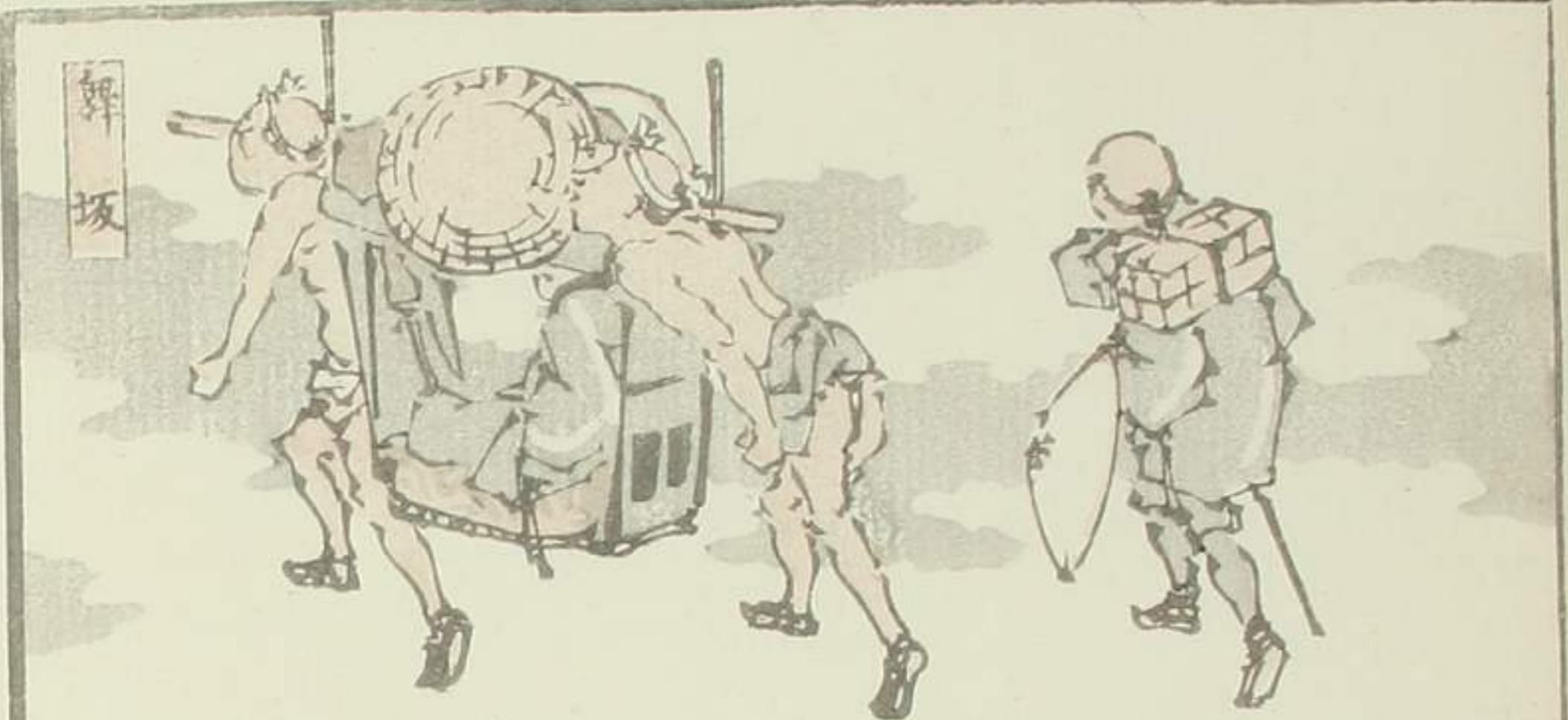
金谷



日坂



懸川





池鯉鮒

鳴海

宮



赤坂

藤川

岡寺

二五六





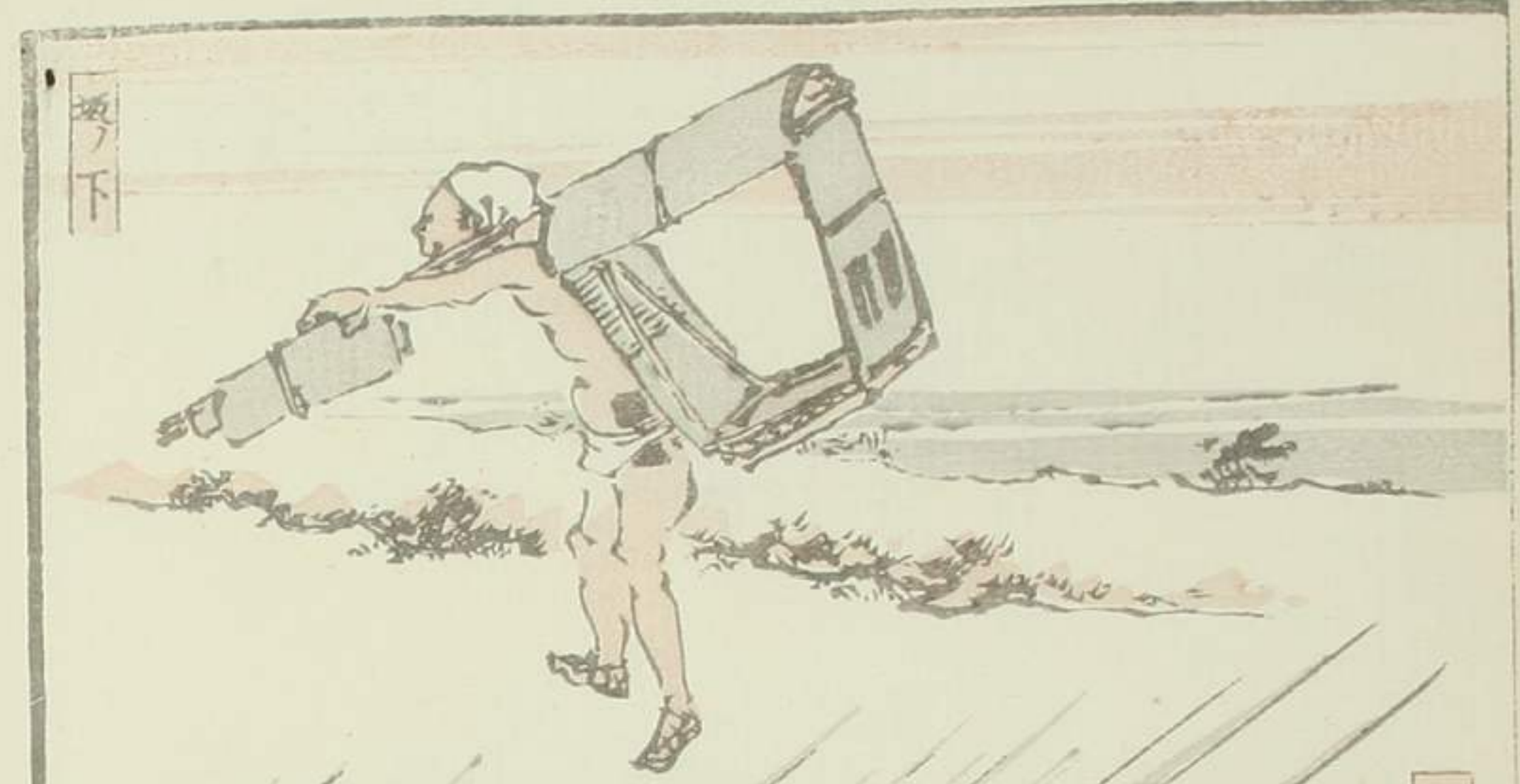
石部



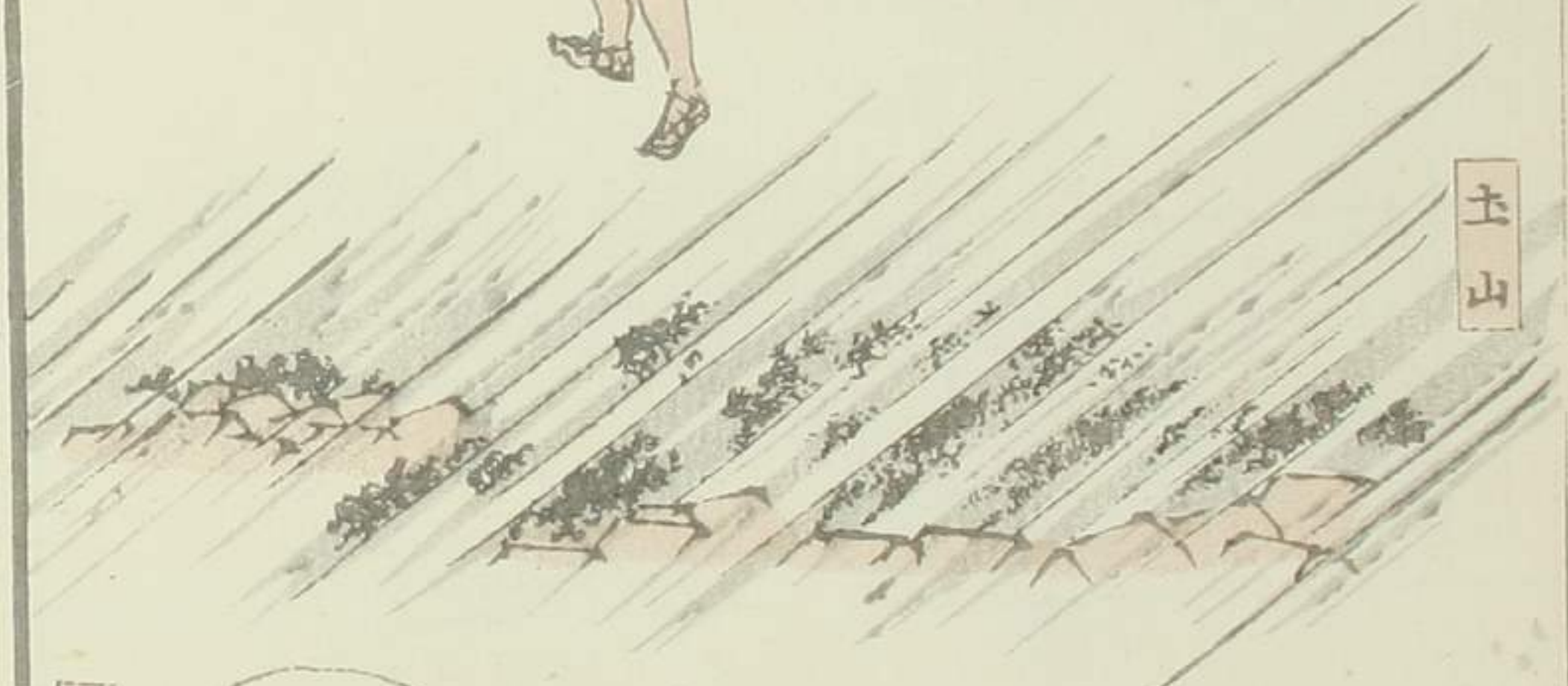
草津



大津



下



土山



水口

二六

京都



江戸画巧

寛政



二九

